

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

| | |
|--------------------------------------|--|
| 名称：まなびの森保育園小杉 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：大場 美久 | 定員（利用人数）： 40(45)名 |
| 所在地：〒211-0004 神奈川県川崎市中原区新丸子東3-1241-4 | |
| TEL：044-422-5111 | ホームページ： http://kodomonomori.co.jp/jt/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：2012年4月1日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社こどもの森 | |
| 職員数 | 常勤職員： 9名 非常勤職員 1名 |
| 専門職員 | 園長 1名 調理員 1名 |
| | 保育士 6名 保育補助 1名 |
| | 栄養士 1名 |
| 施設・設備 の概要 | 乳児室・ほふく室 1室 事務室・医務室 1室 |
| | 保育室・遊戯室 2室 調理室 1室 |
| | 園庭 162.88㎡ |

③理念・基本方針

【保育理念】

- ・豊かな感性や人間性を育み、健康な身体と心を育てる
- ・異年齢世代との交流や地域社会との連携を持ち、開かれた保育園として社会に貢献する

【保育方針】

「やさしく・たくましく・自分らしく」をモットーに自分らしさを大切にできるような温かく見守る保育を実践していきます。

【保育目標】

- ・やさしく思いやりのある子
- ・あいさつのできる子
- ・自分らしく豊かな表現のできる子

④施設・事業所の特徴的な取組

【クラスを越えて全職員で子どもを見る体制づくりに取り組んでいます】

全職員が個々の子どもや保護者の様子を把握する機会として、運動会やお楽しみ会などの行事の後に、2週間ほど担任の入れ替えを行っています。日頃から会議等で共有している各クラスの子どもの様子や保護者の様子について、実際に担当することでより理解を深めています。理解の深まりは職員間の連携にもつながり、全職員で子どもを見る体制づくりにつながっています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 令和2年 6月17日（契約日） ～ 令和3年 3月29日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（ 年度） |

⑥総評

◇特に評価の高い点

【日頃からの異年齢での自然な関わりが、思いやりを育てる心につながっています】

3歳児から5歳児までの子どもたちが同じ保育室で共に過ごすことにより、年上の子どもが年下の子どもを助けるなど、思いやりや責任感が育まれています。食事の場面においては、年上の子がさりげなく配膳を手伝う姿や、園庭遊びでは砂場遊びの順番があるにもかかわらず、年下の子が遊びに来ると自然に受け入れるなどの姿が見られました。このような日頃の関わりから、年下の子どもは年上の子どもへの憧れをもち、早く自分もお兄さんお姉さんのようになりたいと真似ることから、思いやりの心が異年齢を通して引継がれています。保育者が子どもたちの様子を見守りながら、必要に応じて援助していくという関わりも思いやりを育てる支えとなっています。これらの取り組みは、園の保育目標に掲げられている「やさしく思いやりのある子」を育むという実践につながっています。

【一人ひとりの子どもたちが、自立した園生活を過ごせるよう環境に配慮しています】

生活習慣をはじめ、遊ぶ内容など、子どもたち一人ひとりが自立して園生活を過ごせるよう配慮しています。生活習慣では、食事の準備や着脱も含め、保育者からの声かけをされることなく、子どもたち自ら自然に行う姿が様々な場面で見られました。また、「出したものは片付ける」など園生活の中で良い習慣が身についていると感じます。このような姿が見られる背景として、園の環境設定への配慮も感じられます。例えば、壁に掛けられている時計には12, 3, 6, 9, の数字の部分にそれぞれレモン、バナナ、キウイなど果物の絵が貼られていて、1歳児でも絵を見て時間を意識できるような工夫がしてあります。

また、食生活への取り組みの一環として、調理室の前に掲示してあるボードには、その日の献立の食材が描かれたカードがあり、それぞれ体の中で血になるもの、骨になるもの、エネルギーになるものなど、食材が体にどのような働きをするのか、3つのポケットの中から自分で選択してカードを入れていくようになっています。その他に、遊びの環境設定として、机上の遊びや構成遊び、ごっこ遊びなどの遊びごとにコーナーが分かれ、必要な玩具や素材が一人ひとりの興味に応じてすぐに取り出せる環境になっております。子どもたちが棚から自由に玩具を取り出し、思い思いの遊びを始める姿が見られました。

併せて、人的環境でもある保育者は、日頃から子どもたちとコミュニケーションが取れている様子を感じられました。保育者が「あれしよっか」「うん」という会話で子どもたちと通じ合っているところや、保育者が微笑めば子どもたちも微笑み返すという何気ない仕草を随所に見ることができました。

◇改善を求められる点

【保育理念に沿った具体的な中長期計画の策定、及び単年度計画の策定が望まれます】

事業計画は、年間行事予定のほか、保護者との連携の計画、職員の研修計画、児童・職員の健康管理計画、安全安心に対する取り組み計画などが具体的に示された内容になっています。

しかし、保育理念である「豊かな感性や人間性を育み、健康な身体と心を育てる」「異

年齢世代との交流や地域社会との連携を持ち、開かれた保育として社会に貢献する」などに対しての具体的な計画の策定までには至っていません。また、運営方針として事業計画書に掲げられている「『やさしく・たくましく・自分らしく』をモットーに自分らしさを大切にできるよう温かく見守る保育を実践していきます」に対しての具体的な成果等の設定や、実施状況の評価を行える内容までには至っていません。今後は、保育理念、運営方針に沿った具体的な中長期計画の策定、及び単年度計画の策定を行い、さらなる目標に沿った取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自園ではまだまだ不足している部分があった…と気付かされました。事業者自己評価の項目数が多く、心が折れそうになりながらも職員に支えてもらいながら進めていくことが出来ました。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり